

## 2. 報告事項

### 令和元年度土壤医検定試験の実施結果と資格登録者等の概要

令和元年度土壤医検定試験は、令和2年2月16日(日)に全国34会場で開催した。内訳は、ブロックの8会場のほか、準会場として大学5会場、農業大学校7会場、農業高校7会場、その他7会場を設置して行った。その結果と資格登録者等の概要は以下の通りである。

#### 1. 試験申込者数の動向

- ◆最近5か年の試験申込者数は全体で2,800名～3,000名で推移している。令和元年度の試験申込者数については2,765名で、前年度に比較して40名減少した。特に3級の減少が影響している(表1)。
- ◆級別の試験申込者数の比率は3級が最も多く最近57%程度で推移していたが、令和元年度は54.2%(前年度57.7%)とやや減少した。一方、2級の比率は41.2%(前年度37.4%)と前年度と比較してやや増加した。1級の試験申込者数の比率は5%弱程度で安定している。

表1 試験申込者数の推移 (名)

年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年度 級別構成比
1級	—	207	152	140	119	133	137	129	4.7%
2級	1,135	1,104	1,072	1,133	1,121	1,128	1,049	1,138	41.2%
3級	822	1,390	2,353	1,744	1,612	1,750	1,619	1,498	54.2%
合計	1,957	2,701	3,577	3,017	2,852	3,011	2,805	2,765	100.0%

#### 2. 試験申込者の職業別内訳

(令和元年度の試験申込者の増減と構成比率)

- ◆試験申込者の職業別内訳で多いのは肥料会社、農機会社等会社関係者(令和元年度比率44.3%)で、次いで農業者(含農業法人)(同比率11.9%)、JA職員(同比率9.8%)、農業高校生(同比率8.4%)、農業大学校生(同比率7.1%)の順に多くなっている。
- ◆最近の試験申込者の職業別内訳の特色としては、肥料会社、農機会社等会社関係者が減少傾向にあり、農業者(含農業法人)、農業大学校生、大学生が増加傾向にある。
- ◆令和元年度においては、会社員は前年度に引き続き減少(121名)し、農業者(含農業法人)が前年度と比較して増加(48名)した。
- ◆会社関係で減少率の高いのは大手農機メーカー関係者であるが、一方、種苗関係会社関係者については増えている。

- ◆また、農業高校生の試験申込者数が伸び悩んでいる要因としては、農業系以外の学校との統合が進み、また、土づくりに関する学科の減少や教官の減少が進んでいくことがあげられる。
- ◆試験申込者が増えている農業者(含む農業法人)の内訳については、農業者が141名、農業法人が188名となっており、共にほぼ全県に試験申込者が分布している。2年前より実施している農家を対象とした土づくりセミナーの開催時におけるPRや地域土壤医の会の研修会等での働きかけなどが影響していると考えられる。

表2 最近の職業等別試験申込者の推移 (名)

職業等	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度との差	令和元年度の構成比
会社員	1,713	1,679	1,347	1,226	121	44.3%
農業者(含む農業法人)	138	221	281	329	48	11.9%
J A職員	237	220	308	271	37	9.8%
農業高校生	261	286	282	231	51	8.4%
農業大学生	92	108	185	197	12	7.1%
公務員	175	177	165	193	28	7.0%
大学生	110	131	134	163	29	5.9%
公益団体職員	19	14	15	21	6	0.8%
自営	—	24	17	18	1	0.7%
短期大学生	13	14	12	9	3	0.3%
専門学校生	5	8	8	9	1	0.3%
パート、NPO	14	26	1	0	1	0.0%
その他(含む未記入)	75	103	50	98	48	3.5%
合計	2,852	3,011	2,805	2,765	40	100.0%

### 3. 試験申込者の試験会場別内訳

(試験会場数)

- ◆当協会では、試験申込者が近隣の会場で受験できるように、準会場の設置数を増やす努力をしている。その結果、令和元年度は全体で34会場と増加した。(前年度32会場)

(試験会場別試験申込者数)

- ◆地域土壤医の会等の努力により年々準会場が増加してきている。このため、ブロック別試験会場と準会場との受験者の比率は準会場の方が高くなってきており、今年度はほぼ5:5となった。(前年度ほぼ6:4)(表3)

表3 試験会場別試験申し込み者数

(名)

試験会場	2019年度				2018年度			
	1級	2級	3級	計	1級	2級	3級	前年度
札幌	17	109	64	190	19	79	77	175
仙台	9	62	61	132	9	55	58	122
東京	47	228	154	429	43	246	191	480
福井	1	19	44	64	1	26	62	89
名古屋	13	71	68	152	18	97	73	188
大阪	13	81	89	183	9	100	122	231
岡山	7	50	44	101	13	40	83	136
福岡	20	113	121	254	22	102	155	279
(ブロック会場計)	(127)	(733)	(645)	(1505)	(134)	(745)	(821)	(1700)
沖縄	2	11	8	21	3	10	11	24
網走		26	4	30		21	12	33
青森						13	10	23
秋田		8	32	40		10	18	28
山形		11	18	29		21	34	55
鴻巣		41	42	83		3	23	26
長野		39	39	78		34	51	85
静岡		48	37	85		29	43	72
新潟		31	61	92		32	64	96
滋賀		32	72	104		9	42	51
島根		30	28	58		12	8	20
徳島		24	48	72		26	42	68
愛媛		18	13	31		15	9	24
高知		22	51	73		19	42	61
大分		34	82	116		27	69	96
福島農短		2	13	15		2	8	10
栃木農高		1	12	13				0
田方農高			25	25			19	19
長野農大		3	75	78		2	46	48
加茂農林			42	42			48	48
大垣養老			40	40		1	40	41
岐阜農林			30	30		1	51	52
庄原実業		5	22	27		4	52	56
朝倉			26	26				0
JA大分		11	9	20		1	24	25
宮崎農大		2	9	11		3	22	25
鹿児島農大		6	15	21		9	10	19
(準会場計)	(2)	(405)	(853)	(1260)	(3)	(304)	(798)	(1105)
総合計	129	1,138	1,498	2,765	137	1049	1619	2,805
ブロック会場比率	98.4%	64.4%	43.1%	54.4%	97.8%	71.0%	50.7%	60.6%
準会場比率	1.6%	35.6%	56.9%	45.6%	2.2%	29.0%	49.3%	39.4%

#### 4. 試験申込者の男女別比率と年齢

- ◆試験申込者の男女数とその比率をみると、女性の試験申込者数が年々増加してきており、女性の全体に占める比率は、20.9%(昨年度 18.3%)と高まっている(表4)。級別には、1級、2級、3級の順に女性の申込者数の比率は高くなっている。

表4 令和元年度試験申込者の級別男女数と比率 (名)

性別	1級		2級		3級		合計		平成30年度	
	名	比率	名	比率	名	比率	名	比率	申込者計	比率
男性	116	89.9%	943	82.9%	1,129	75.4%	2,188	79.1%	2,291	81.7%
女性	13	10.1%	195	17.1%	369	24.6%	577	20.9%	514	18.3%
合計	129	100.0%	1,138	100.0%	1,498	100.0%	2,765	100.0%	2,805	100.0%

- ◆試験申込者の平均年齢については、33.4歳で昨年度とほぼ同じである。最高齢は84歳(昨年度 82歳)で、最年少は13歳(昨年度 17歳)で、13歳(中学1年生)は検定試験開始以来最も若い受験生であった(表5)。

表5 令和元年度試験申込者の年齢 (歳)

	令和元年度				平成30年度			
	1級	2級	3級	平均年齢	1級	2級	3級	平均年齢
最高齢	78	84	84		70	82	79	
最年少	27	16	13		25	17	15	
平均年齢	44.1	36.4	30.1	33.4	42.4	36.8	30.3	33.3

#### 5. 土壌医検定試験合格者と合格率

- ◆土壌医検定試験の合格率については、1級合格者は34.4%で、2級は29.3%、3級については、57.6%となっている。前年度と比較してほぼ同水準で推移している。(表6)

表6 令和元年度級別の受験者と合格率(( )内前年度) (名)

	試験申込者	受験者	合格者	合格率(%)
1級	129(137)	123 (125)	38(43)	30.9(34.4)
2級	1,138(1,049)	1,036(952)	316(279)	30.5(29.3)
3級	1,498(1,619)	1,398(1,495)	806(862)	57.7(57.7)
計	2,765(2,805)	2,557(2,572)	1,160(1,184)	—

#### 6. 土壌医関係研修会の開催

- ◆協会では、主に受験者を対象とする研修会と主に資格登録者を対象とした実践研修会を行っている。受験対象者の研修会は1級対象と2級及び3級対象の研修会とに分けて実

施している。令和元年度は1級対象研修会を1会場で、2級及び3級対象の研修会を、全国4会場で各2日間に亘って実施した。

- ◆実践研修会については、2会場で実施する計画であったが、うち本年3月実施分については新型コロナウイルス感染症の問題から中止した。
- ◆受験対象者の研修会では特に令和元年度は専用テキストに「特に最近出題頻度の高い項目や間違いやすい点(例)」とともに、前年度の主な問題例の正解とコメントを掲載するなど、参加者のニーズにより沿ったものとなるようにした。その結果、各級とも受講者の平均合格率は全受験者の合格率を上回った。

表7 受験対策研修会受講者の合格率 (名)

級	受講者			全体の合格率	差
	受験者	合格者	合格率		
1級	28	14	50.0%	30.9%	19.1%
2級	113	45	39.8%	30.5%	9.3%
3級	69	49	71.0%	57.7%	13.3%

## 7. 土壌医資格登録者数

- ◆土壌医資格登録者数は、令和2年3月現在では3,698名となっている。特に1級合格者の資格登録率が高い(表8)。

表8 土壌医資格登録者数 (名)

資格名	令和2年3月現在
土壌医	168
土づくりマスター	922
土づくりアドバイザー	2,608
合計	3,698

## 8. 土壌医の会の組織化状況

- ◆土壌医資格登録制度では、資格登録者に継続研鑽が義務付けられており、その継続研鑽等を行うための重要な組織として土壌医の会が位置づけられている。
- ◆全国的活動を推進するための組織である「土壌医の会全国協議会」以外に、本年3月までに「地域土壌医の会」が18組織、「事業体土壌医の会」が13組織の合計31組織が結成されている。(表9)
- ◆制度開始直後は「事業体土壌医の会」の組織化数が多かったが、最近では「地域土壌医の会」の組織化数が多くなってきている。
- ◆令和元年度には5土壌医の会が新たに組織化されており、全て地域土壌医の会であった。

表9 土壌医の会の組織化状況一覧

(令和2年7月現在)

No	設立日	名称	会長	事務局所在地	区分
	2017年3月7日	土壌医の会全国協議会	野口勝憲	東京都	全国
1	2014年11月17日	沖縄土壌医の会	宮丸直子	沖縄県	地域土壌医の会
2	2015年10月1日	ヤンマー土壌医の会	菊地満	大阪府	事業体土壌医の会
3	2015年10月9日	富士見工業土壌医の会	山本正信	静岡県	事業体土壌医の会
4	2015年10月14日	クボタ土壌医の会	乾忠則	大阪府	事業体土壌医の会
5	2016年1月27日	ホーネンアグリ土壌医の会	小林民雄	新潟県	事業体土壌医の会
6	2016年2月23日	日本肥糧土壌医の会	小川孝行	東京都	事業体土壌医の会
7	2016年3月23日	片倉コープアグリ土壌医の会	野口勝憲	東京都	事業体土壌医の会
8	2016年5月26日	朝日肥糧土壌医の会	八重 安修	香川県	事業体土壌医の会
9	2016年8月16日	「土の匠」土壌医の会]	越坂義明	群馬県	事業体土壌医の会
10	2017年4月1日	首都圏土壌医の会	高山晃	東京都	地域土壌医の会
11	2017年4月25日	サカタ土壌医の会	田村恵理子	高知県	事業体土壌医の会
12	2017年6月1日	朝日アグリア(株)土壌医の会	武田正人	埼玉県	事業体土壌医の会
13	2017年7月3日	新潟県土壌医の会	長谷川雅義	新潟県	地域土壌医の会
14	2017年9月7日	柏土壌医の会	高野典子	千葉県	地域土壌医の会
15	2017年9月22日	高知土壌医の会	山崎浩司	高知県	地域土壌医の会
16	2017年9月28日	信州土壌医の会	吉田清志	長野県	地域土壌医の会
17	2017年10月4日	住商アグリビジネス土壌医の会	岡村大輔	東京都	事業体土壌医の会
18	2017年12月12日	北海道オホーツク土壌医の会	佐藤富則	北海道	地域土壌医の会
19	2018年6月20日	大分土壌医の会	小野忠	大分県	地域土壌医の会
20	2018年7月1日	生科研土壌医の会	中嶋浩平	熊本県、埼玉県	事業体土壌医の会
21	2018年7月19日	札幌土壌医の会	根本浩	北海道	地域土壌医の会
22	2018年8月22日	茨城土壌医の会	屋代幹雄	茨城県	地域土壌医の会
23	2018年9月12日	やまか土壌医の会	藤井秀和	東京都	事業体土壌医の会
24	2018年10月15日	三重県土壌医の会	近藤芳弘	三重県	地域土壌医の会
25	2018年11月1日	愛媛土壌医の会	上野秀人	愛媛県	地域土壌医の会
26	2018年11月19日	近畿土壌医の会	間藤徹	大阪府	地域土壌医の会
27	2019年7月18日	九州土壌医の会	大畑和生	長崎県	地域土壌医の会
28	2019年7月25日	山陰土壌医の会	松本真悟	島根県	地域土壌医の会
29	2019年9月17日	福岡土壌医の会	一百野昌世	福岡県	地域土壌医の会
30	2019年12月23日	北部九州土壌医の会	染谷孝	福岡県	地域土壌医の会
31	2020年2月3日	宮崎土壌医の会	赤木康	宮崎県	地域土壌医の会
32	2020年6月15日	イノチオ土壌医の会	石黒功	愛知県	事業体土壌医の会